

Ⅲ 基本方針Ⅱ 循環型社会の形成

1 環境基本計画における取組

市では、平成 31(2019)年 4 月から実施している家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集・資源化の検討など、さまざまな課題について取り組んでいます。

循環型社会の形成に向けては、資源とごみの総量の抑制に取り組み、総量を抑制してもなお発生するものについては、資源としての循環利用を徹底して環境負荷を低減し、それでも残る廃棄物については、適正な処分に努めています。

令和 5(2023)年度の市民一人 1 日あたりのごみ・資源物の総量は (628.6 g/人日) となり、令和 4(2022)年度 (654.4 g/人日) と比較するとマイナス 25.8 g/人日、マイナス 3.9%の減少となりました。

数値目標	基準値(2022)	現状値(2023)	目標値(毎年度)
市民一人 1 日あたりごみ・資源物総量の抑制	654.4 g/人日*	628.6 g/人日 (前年度比△3.9%)	前年度比減

※「小平市第四次一般廃棄物処理基本計画」における排出物原単位

(1) 廃棄物の発生抑制 (リデュース)

循環型社会の形成に向けて、まずは、廃棄物を発生させないことが肝要であり、市民・事業者の意識改革を促すとともに、食品ロスの削減やプラスチックごみなどの減量への取組を強化しています。また、事業系一般廃棄物手数料の適正化のため、令和 5(2023)年 4 月に事業系一般廃棄物の処理手数料を改正しました。

【主な取組】

- ・食品ロス削減推進計画の策定
- ・ペーパーレス化の推進
- ・小売り販売や梱包材削減の推進
- ・事業系一般廃棄物手数料の適正化
- ・こだいら食べきり協力店登録制度の実施

数値目標	2021 年度	現状値 (2023)	目標値(2030)
燃やすごみに含まれる可燃性資源 (雑がみ、雑誌など) の抑制	11.1%	8.8%	10%

※ごみ組成分析調査については、2 年に 1 度実施している。

(2) 資源の循環利用(リユース・リサイクル)

市では、平成 31(2019)年 4 月に分別方法の変更を行い、プラスチック製容器包装の全量資源化に努めています。また、リサイクルきやらばんなどの活動を通じて、陶磁器食器や廃食油の回収を行っており、資源の循環利用を進めています。

今後も、様々な品目でリユース・リサイクルに努めるとともに、学習機能を備えたリサイクルセンターやごみ分別アプリなどのツールを活用し、啓発を行い、分別や資源化の徹底を推進していきます。

【主な取組】

- ・ごみ分別アプリの活用
- ・リサイクルの促進(小型家電、陶磁器食器、剪定枝、廃食油等)
- ・リユースサイト(ジモティー、おいくらなど)の利用促進(家具、子育て用品等)



リサイクルセンター



ごみ分別アプリ

数値目標	前年度(2022)	現状値(2023)	目標値(毎年度)
資源物行政回収量の抑制*	11,251 t	10,799 t (前年度比△4.0%)	毎年度比減

※生産・販売だけでなく廃棄以降の段階まで関わる責任(拡大生産者責任)の考え方を踏まえ、事業者の店頭回収等を推進することにより、廃棄物の発生抑制やリサイクルを促進し、さらに行政回収量を抑制する。

(3) 適正処理の維持・向上

市では、平成 31(2019)年 4 月から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行するとともに、リサイクルセンターを開設しました。

小平・村山・大和衛生組合では、同時期に新設のプラスチック製容器包装・ペットボトルの中間処理施設(エコプラザ スリーハーモニー)が稼働しました。

また、令和 2(2020)年 4 月から新不燃・粗大ごみ処理施設が稼働し、現在、令和 7(2025)年度の稼働に向けて、(仮称)新ごみ焼却施設の整備を進めています。

引き続き、新ごみ焼却施設の整備を着実に進めるとともに、家庭・事業者からの廃棄物の適正排出の指導に努めていきます。

2 清掃事業の概要

(1) 循環型社会の形成に向けた取組

ごみの問題は、今や環境問題として社会的に深刻であり、重要な行政課題となっています。また、資源の保護や環境保全の面からも重要な課題です。少しでもごみを減らすために、市民・事業者・行政が連携し懸命になって取り組んでいく必要があります。

従来の大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会構造は、私たちに多くの恩恵をもたらす一方で、生産、流通、消費、そして廃棄物処理の各過程において多くの資源・エネルギーを消費し、多大な環境負荷を生じさせています。

小平市では市民と事業者の協力の下、資源の分別収集を市内全域で実施し、リサイクル率を高めてきました。

また、小平市は、平成 31(2019)年 4 月 1 日に実施した家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集・資源化の検討など、さまざまな課題について取り組んでいます。

これらの課題への取組をさらに進めるために、廃棄物の減量と処理に係る事業の根幹となるものとして、令和 5(2023)年 3 月に「小平市第四次一般廃棄物処理基本計画」を策定し、さらなる循環型社会の形成に向けた取組を行います。

(2) 清掃費の推移

① 清掃費財源の年度別推移（決算額）

小平・村山・大和衛生組合の負担金の増加などにより、令和 5(2023)年度の清掃費は増加しています。

【清掃費財源の年度別推移（決算額）】 (単位：千円)

年度	一般財源	ごみ処理 手数料	し尿処理 手数料	国・都 支出金	基金 繰入金	その他	合計
2019	1,778,742	714,061	10,583	692,590	178,809	42,415	3,417,200
2020	2,207,440	663,355	6,529	405,076	210,876	51,545	3,544,821
2021	1,822,494	665,164	7,475	701,690	222,809	91,094	3,510,725
2022	2,014,624	645,615	6,845	692,800	0	1,455	3,361,339
2023	2,128,046	681,820	7,708	679,055	0	3,601	3,500,230

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

【ごみ減量・リサイクル推進基金への積立額の推移】 (単位：千円)

年度	積立額	年度末 現在額
2019	126,579	346,859
2020	95,581	231,564
2021	134,513	143,268
2022	180,010	323,278
2023	171,711	494,989

② 清掃費の年度別推移（決算額）

（単位：千円）

年度	清掃総務費		塵芥処理費		し尿処理費		資源循環 推進費		歳出額合計	
	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%
2019	121,214	3.5	2,650,319	77.6	54,738	1.6	590,929	17.3	3,417,200	100.0
2020	104,655	3.0	2,790,228	78.7	54,419	1.5	595,519	16.8	3,544,821	100.0
2021	105,130	3.0	2,717,043	77.4	52,013	1.5	636,539	18.1	3,510,725	100.0
2022	104,753	3.1	2,680,103	79.7	49,079	1.5	527,404	15.7	3,361,339	100.0
2023	107,095	3.0	2,809,383	80.3	44,972	1.3	538,780	15.4	3,500,230	100.0

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

③ 令和6（2024）年度予算額

一般会計総予算額	83,000,000 千円
清掃費総予算額	3,503,009 千円
一般会計に対する割合	4.2%

※当初予算ベース

④ 一部事務組合分担金・負担金の年度別推移

（単位：千円）

年度	小平・村山・大和 衛生組合	東京たま広域 資源循環組合	湖南衛生組合
2020	1,167,505	466,309	27,910
2021	1,186,918	377,284	25,336
2022	1,156,654	355,791	22,659
2023	1,260,576	361,127	18,259
2024	1,149,256	367,344	18,182

⑤ 令和5（2023）年度ごみ処理にかかる決算状況

【歳入】

清掃手数料（家庭系廃棄物処理）※1	467,282,180 円
清掃手数料（事業系一般廃棄物処理）※2	50,897,200 円
清掃手数料（塵芥処理）※3	202,812,270 円
清掃手数料（し尿処理、浄化槽汚泥処理）	7,707,900 円
資源回収売払金	139,412,882 円
その他（許可申請手数料、指定収集袋広告収入など）	1,623,500 円
計	869,735,932 円

※1 家庭系指定収集袋

※2 事業系指定収集袋

※3 事業系持込、臨時収集、粗大ごみシール

【歳出】

指定収集袋等販売手数料	50,037,198 円
指定収集袋等製造・管理等業務委託	150,764,578 円
ごみ収集運搬業務委託	841,300,900 円
資源物収集運搬業務委託	358,286,500 円
し尿収集運搬業務委託	26,712,442 円
粗大ごみ等収集運搬、受付業務委託及びシステム等賃貸借	69,167,120 円
資源回収団体補助	12,676,034 円
食物資源循環業務委託	13,017,807 円
小平市リサイクルセンター長期包括運營業務委託	124,761,063 円
小平・村山・大和衛生組合分担金	1,260,576,000 円
東京たま広域資源循環組合負担金	361,127,000 円
湖南衛生組合分担金	18,259,000 円
その他（職員人件費、物品購入費、上記以外の委託費など）	213,544,268 円
計	3,500,229,910 円

⑥ ごみ処理量と資源化量の推移

品目	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		
①人口（人）	194,941		195,207		195,014		196,543		196,388		
②燃やすごみ											
年間排出量（t）	収集 4,118	持込 30,922	合計 26,804	28,129	31,962	27,596	31,644	27,053	31,147	26,112	30,091
対前年比（%）	-8.2%		3.4%		-1.0%		-1.6%		-3.4%		
一人1日あたり排出量（g）	433.4		448.6		444.6		434.2		418.6		
③燃やさないごみ											
年間排出量（t）	収集 58	持込 1,467	合計 1,409	1,780	1,818	1,629	1,663	1,549	1,576	1,443	1,463
対前年比（%）	-73.8%		23.9%		-8.5%		-5.2%		-7.2%		
一人1日あたり排出量（g）	20.6		25.5		23.4		22.0		20.4		
④粗大ごみ											
年間排出量（t）	収集 62	持込 1,199	合計 1,137	1,403	1,436	1,348	1,374	1,263	1,269	1,186	1,223
対前年比（%）	-9.0%		19.8%		-4.3%		-7.6%		-3.6%		
一人1日あたり排出量（g）	16.8		20.2		19.3		17.7		17.0		
⑤資源（行政回収）											
年間排出量（t）	収集 4,238	持込 33,588	合計 29,350	31,312	35,216	30,573	34,681	29,865	33,992	28,741	32,777
対前年比（%）	-17.3%		4.8%		-1.5%		-2.0%		-3.6%		
一人1日あたり排出量（g）	470.8		494.3		487.2		473.8		456.0		
⑥資源（優良粗大ごみ）											
ビン（t）	1,169		1,320		1,280		1,213		1,201		
カン（t）	442		497		476		460		435		
紙類（t）	収集 13	持込 5,795	合計 5,782	6,212	6,232	5,974	5,993	5,847	5,861	5,550	5,565
古布・ふとん（t）	854		1,033		952		895		858		
紙パック（t）	8		4		7		7		7		
白色トレイ（t）	0		0		0		0		0		
ペットボトル（t）	453		496		484		507		538		
プラスチック製容器包装（t）	1,754		1,894		1,888		1,866		1,785		
金属類（t）	139		165		157		145		134		
剪定枝（t）	3		4		17		12		13		
生ごみ一次処理物（t）	24		18		23		22		22		
食物資源（生ごみ）（t）	82		93		91		86		80		
キャップ（t）	1		0		0		0		0		
陶磁器（t）	14		18		11		14		11		
スプレー・ガス缶（t）	39		44		43		43		45		
ライター（t）	3		3		3		2		2		
小型家電（t）	8		8		7		6		7		
⑦資源（優良粗大ごみ）（t）	31		36		41		45		42		
⑧資源（有害性資源）（t）	60		77		69		67		54		
⑨資源（集団回収）（t）	2,179		1,932		1,769		1,700		1,607		
⑩資源（資源化量）											
年間排出量（t）	収集 13	持込 13,058	合計 13,045	13,854	13,874	13,292	13,311	12,937	12,951	12,391	12,406
対前年比（%）	2.8%		6.2%		-4.1%		-2.7%		-4.2%		
一人1日あたり排出量（g）	183.0		194.7		187.0		180.5		172.6		
⑪資源化率（%）											
年間排出量（t）	収集 4,251	持込 46,646	合計 42,395	45,166	49,090	43,865	47,992	42,802	46,943	41,132	45,183
対前年比（%）	-12.5%		5.2%		-2.2%		-2.2%		-3.7%		
一人1日あたり排出量（g）	653.8		689.0		674.2		654.4		628.6		
⑫組合資源化量（t）	801		2,390		2,335		2,035		1,373		
⑬総資源化率（%）	29.7%		33.1%		32.6%		31.9%		30.5%		

※人口は、毎年度末(3月31日時点)です。

※1日あたりの排出量は、年間排出量を年間日数で除したものです。

※資源化量合計、廃棄物総量及び資源化率には、組合資源化量を含みません。

※廃棄物総量はごみ処理量合計と資源化量合計の合計となります。

※資源化量合計には、協力店で回収(拠点回収)した資源(紙パック、白色トレイ)を含みません。

※資源化率=資源化量合計/ごみ処理量合計

※総資源化率=(資源化量合計+組合資源化量)/ごみ総量

※紙類とは、新聞紙、雑誌・雑がみ、段ボール、シュレッダーくずのことです。

※組合資源化量は、燃やすごみ、燃やさないごみから選別等を行い、3市の合計から按分したものです。

※行政回収量は、拠点回収量を含みます。

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

平成 31(2019)年 4 月に実施した家庭ごみの有料化により、令和元(2019)年度のごみ量は大きく減少しましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、ステイホームなどの新たな生活様式が広がり、令和 2(2020)年度のごみ量は増加に転じました。その後、新型コロナウイルス感染症の状況に落ち着きが見え始め、コロナ禍以前の生活を取り戻しはじめた令和 3(2021)年度には、ごみ量は再び減少に転じ、さらに令和 5(2023)年度も減少傾向が続いています。

<参考>

【小平市一般廃棄物処理基本計画 数値目標の推移】

年度	2019	2020	2021	2022	2023	現計画目標値 2032年度
排出物原単位 (g/人日)	653.8	689.0	674.2	654.4	628.6	616.0g/人日
処理ごみ量 原単位(g/人日)	470.8	494.3	487.2	473.8	456.0	432.0g/人日
収集ごみ量 原単位(g/人日)	411.4	439.4	429.5	416.3	399.9	モニター指標 (毎年度)
持込ごみ量 (t/年)	4,239	3,905	4,107	4,127	4,037	モニター指標 (毎年度)
収集時リサイクル 率(%)	28.0	28.3	27.7	27.6	27.5	モニター指標 (毎年度)
最終処分量 (t/年)	3,927	3,396	3,371	3,333	3,421	モニター指標 (毎年度)

排出物原単位は、市が処理に関与する廃棄物を市民一人、1日当たりの量に換算したもので、発生抑制がどのくらい図られているかがわかる指標となります。一人1日当たりの排出量が小さくなるほど、発生抑制が図られたといえます。

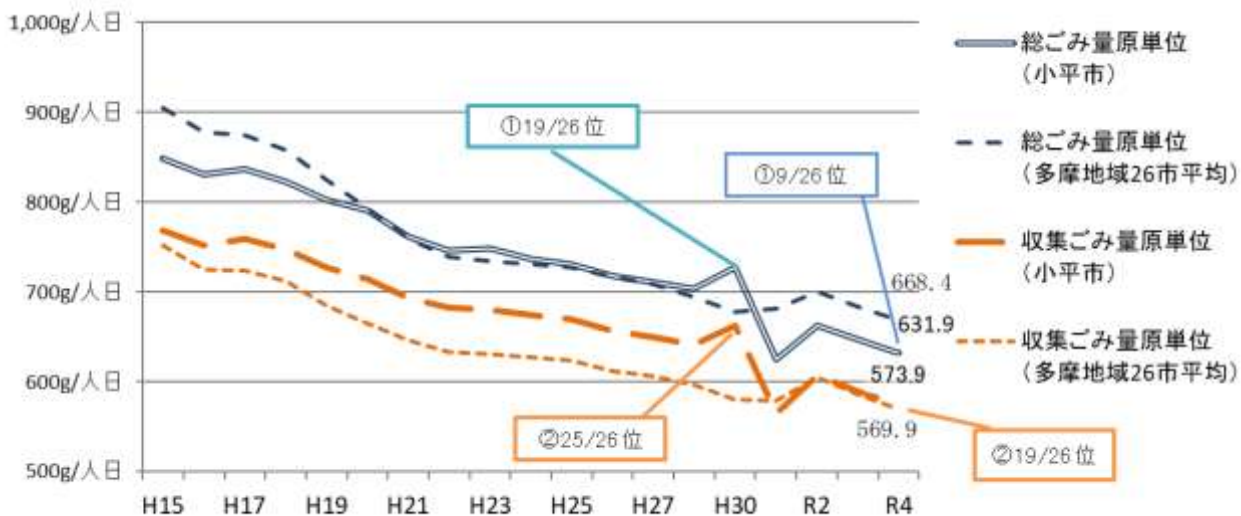
令和 14(2032)年度の目標値は、市民一人1日当たり 616.0 g と設定しています。令和 5(2023)年度の実績は 628.6 g で、前年度と比較して 25.8 g、約 3.9%減となっています。

また、処理ごみ量原単位は、ごみ・資源物総量のうち、ごみだけの量を市民一人1日当たりに換算したもので、ごみの発生抑制とともに、資源化品目の拡大と分別の徹底の効果を計る指標となります。

令和 14(2032)年度の目標値は、市民一人1日当たり 432.0 g と設定しています。令和 5(2023)年度の実績は 456.0 g で、前年度と比較して 17.8 g、約 3.8%減となっています。

<参考>

【小平市と多摩地域 26 市平均との比較】



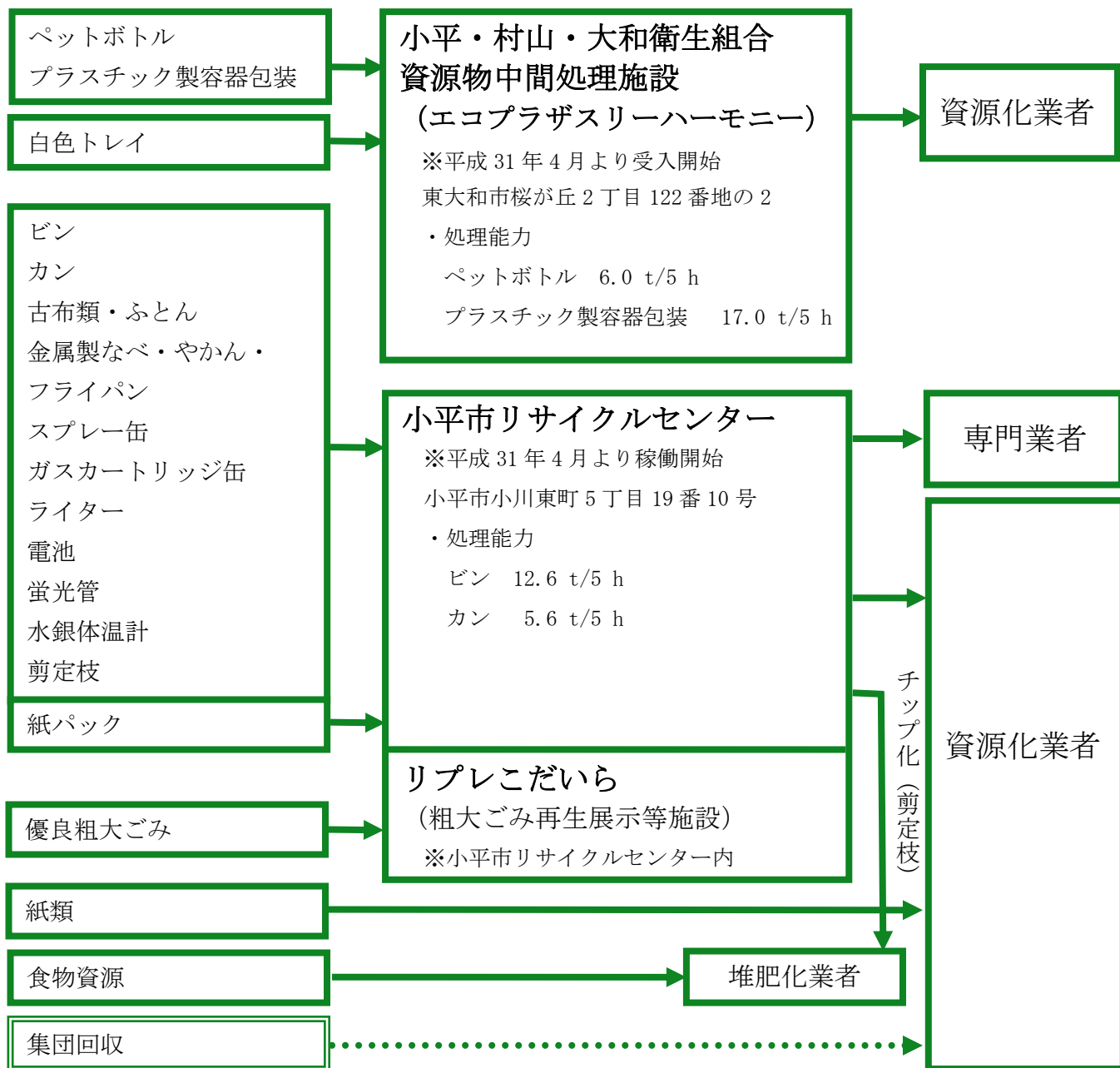
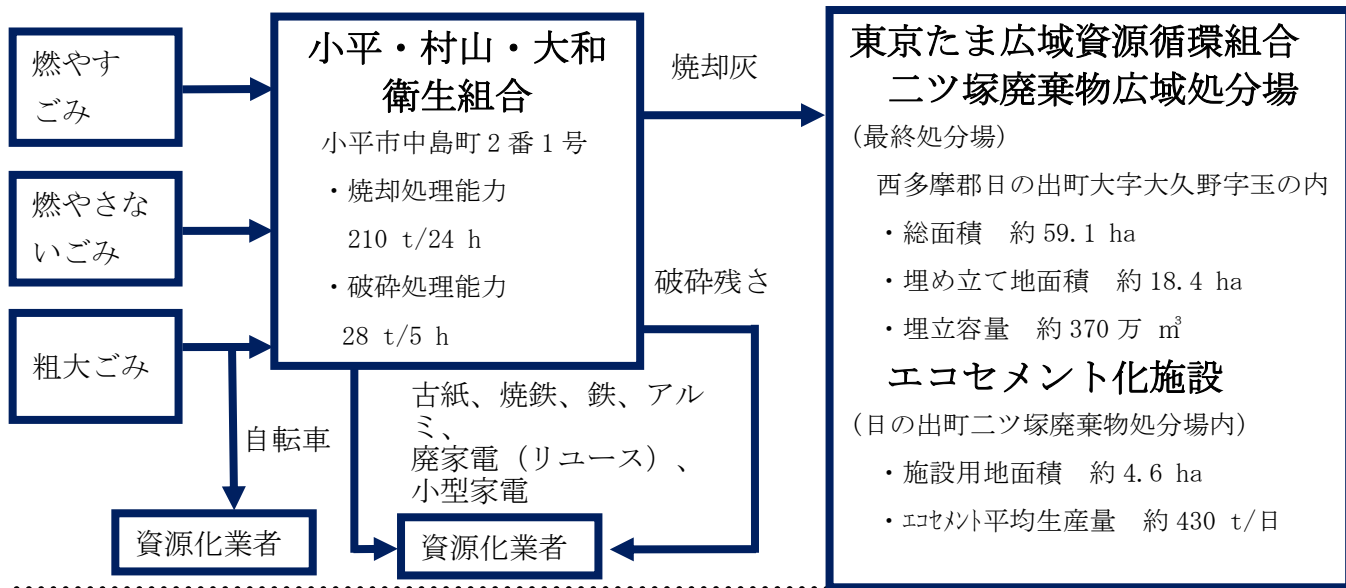
	平成 30 年度(有料化前)	令和 4 年度
① 総ごみ量原単位	19 位	9 位
② 収集ごみ量原単位	25 位	19 位

東京市町村自治調査会が作成している「多摩地域ごみ実態調査」の令和 4(2022)年度統計によると、小平市の、集団回収分を除いた、市民一人 1 日当たりのごみ・資源総量を示した「総ごみ量原単位」は、多摩地域 26 市中で少ない方からみて 9 番目となっています。また、総ごみ量のうち、市が収集したごみと資源の総量を示した「収集ごみ量原単位」は、多摩地域 26 市中で少ない方からみて、19 番目となっています。



収集の様子

【資源とごみの処理の流れ】（令和5(2023)年度）



※小平・村山・大和衛生組合のごみ焼却施設建て替え工事に伴い、令和3(2021)年4月より燃やすごみの一部を多摩地域の他の市町村等のごみ焼却施設で処理(広域支援)していただいています。(令和5(2023)年度…柳泉園組合(構成市：清瀬市・東久留米市・西東京市)及びふじみ衛生組合(構成市：三鷹市・調布市)で処理)

3 ごみ処理事業

(1) ごみ処理事業の概要

小平市では、昭和40(1965)年に東大和市、武蔵村山市と共同して小平・村山・大和衛生組合を設立し、ごみの焼却処理等をしてきましたが、その後、ごみ量の増大とごみ質の変化等に対応するため施設の増改築を繰り返し現在に至っています。また、より環境に配慮した清掃工場とするためにバグフィルターや白煙防止装置の設置を実施してきました。

施設の老朽化・旧式化等による課題に対応するため、平成26(2014)年度に「3市共同資源化事業基本構想」を策定し、資源物処理施設や不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の整備・更新について方針等を定めました。

その後、平成27(2015)年度に「(仮称)3市共同資源物処理施設整備実施計画」及び「(仮称)不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画」を策定し、平成28(2016)年度より小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設の設計・建設工事を、平成29(2017)年度より不燃・粗大ごみ処理施設の設計・建設工事をそれぞれ開始しました。

そして、平成31(2019)年4月に小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設がしゅん工し、資源物の受け入れを開始しました。また、令和2(2020)年3月に不燃・粗大ごみ処理施設がしゅん工し、同年4月より稼働を開始しました。現在は、(仮称)新ごみ焼却施設の整備を進めており、稼働予定は令和7(2025)年度となっています。

ごみの最終処分地は、昭和55(1980)年に東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合(現・東京たま広域資源循環組合)を設立し、昭和59(1984)年から日の出町の谷戸沢最終処分場で埋め立てを開始し、平成10(1998)年には埋立が終了しましたが、続いて同じ日の出町に二ツ塚最終処分場を建設し、現在組織市25市1町のごみを搬入しています。また、二ツ塚最終処分場の延命化及び資源の再利用化を目的として、焼却灰をセメントにリサイクルする「エコセメント化事業」に取り組んでおり、現在、焼却灰すべてがエコセメントとして、利用されています。

市では、平成5(1993)年度に市内全域での資源の分別収集を行うため収集日の変更を実施し、平成8(1996)年度には粗大ごみを有料としました。また、平成10(1998)年度には収集日を再度変更して排出抑制と資源化の強化に取り組み、平成12(2000)年10月には事業系ごみの全面有料化を実施する等、自己処理の徹底、ごみの排出抑制、資源の有効利用の促進はもとより、中間処理施設への負担軽減や最終処分場への搬入量の減量化に努めてきました。

一方、平成16(2004)年8月より小平市粗大ごみ受付センターを開設し、受付日時の拡大等のサービス向上を図るとともに、受付業務の迅速化、効率化を図り、平成17(2005)年11月から、インターネット受付を開始しました。

平成19(2007)年4月には、小平市清掃事業協同組合と「災害時におけるごみ、し尿、がれきの処理活動等の応援に関する協定書」を締結、平成29(2017)年4月には、東多摩再資源化事業協同組合と「災害時における災害廃棄物運搬等の協力に関する協定書」を締結し、災害時の協力体制を整えました。

平成 21(2009)年度には、市と清掃事業協同組合で「新型インフルエンザに係る業務継続計画」を作成しました。そして、平成 28(2016)年度には、小平市清掃事業協同組合と高齢者等の見守りに関わる協定を締結しました。

令和元(2019)年度には、家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

今後も、廃棄物の発生抑制、繰り返し使う再使用の推進、そして資源としての再利用やエネルギーとしての利用に努め、さらに再利用ができない物については環境に配慮した適正な処理をする等、循環型社会の構築に向けて市民、事業者、行政が一体となって、持続可能な施策の取組や新たなごみ減量策を行っていかねばなりません。そのため、令和 5(2023)年 3 月には、令和 14(2032)年度までの市の廃棄物行政の根幹となる、小平市第四次一般廃棄物処理基本計画を策定しました。

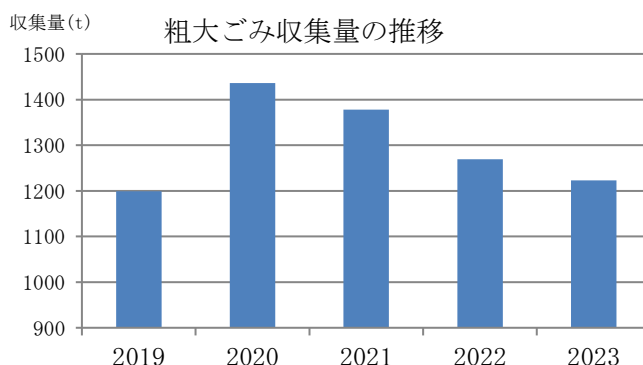
(2) 粗大ごみ収集

粗大ごみの受付件数は、新型コロナウイルス感染症感染拡大によるステイホームなどの新しい生活様式の中、家の中の整理を行う家庭が増え、令和 2(2020)年度には大きく増加しましたが、令和 3(2021)年度以降は受付件数、収集量ともに前年を下回り、落ち着きを取り戻しました。

なお、過去の傾向を月別にみた場合、年末の大掃除の 12 月や大型連休がある 5 月が多い傾向にあります。

【粗大ごみ収集年度別推移】

年度	粗大ごみ			
	受付件数 (件)	対 前年比	収集量(t)	対 前年比
2019	53,522	-10.3%	1,199	-9.0%
2020	69,332	29.5%	1,436	19.8%
2021	66,982	-3.4%	1,374	-4.3%
2022	65,203	-2.7%	1,269	-7.6%
2023	63,322	-2.9%	1,223	-3.6%



【粗大ごみ等処理受付件数(令和 5(2023)年度月例)】

(単位: 件)

	収 集	臨 時	合 計
4月	5,429	0	5,429
5月	5,515	2	5,517
6月	5,159	0	5,159
7月	5,369	0	5,369
8月	5,105	0	5,105
9月	4,873	0	4,873
10月	5,695	2	5,697
11月	5,440	0	5,440
12月	6,085	1	6,086
1月	4,802	1	4,803
2月	4,451	0	4,451
3月	5,399	0	5,399
合 計	63,322	6	63,328



収集された粗大ごみ

(3) 不法投棄・動物の死体処理

不法投棄の品目は多岐にわたり、分別されていない未分別ごみ、敷物、板などがあります。
動物の死体は、飼い主がいない猫、鳥、ネズミなどが多く処理されています。

【不法投棄・動物死体処理件数】

年度	不法投棄		動物の死体（収集回数）						
	家電リサイクル （個）	その他 （個）	犬		猫		その他		
			飼 飼	飼 い主が いない	飼 飼	飼 い主が いない	飼 飼	飼 い主が いない	計
2021	2	138	10	3	14	125	0	187	339
2022	0	97	8	0	20	80	6	207	321
2023	1	82	7	0	16	59	6	234	322

※家電リサイクルとは、エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機で、市では収集していない品目になります。

(4) ごみ投入実績比較

燃やすごみは、ごみ全体の約9割を占めています。

【ごみ投入実績】

（単位：t）

	収集	持込	計	割合
燃やすごみ	26,112	3,979	30,091	91.8%
燃やさないごみ	1,443	20	1,463	4.5%
粗大ごみ	1,186	37	1,223	3.7%
計	28,741	4,036	32,777	100.0%
%	87.7%	12.3%	100.0%	-

※持込には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第7条の許可業者、相対契約、臨時持込による処分が含まれます。

※端数処理のため割合の計が一致しないことがあります。

(5) 家庭ごみ組成分析調査 | 令和 5 (2023) 年度

家庭ごみに含まれる資源物や不適正物及び食品ロスの割合を把握し、更なるごみ減量とリサイクル推進を図るため、2年に1度家庭ごみの組成分析の調査を行っています。燃やすごみの中には19.1%、燃やさないごみの中には30.4%、プラスチック製容器包装の中には15.9%の分別不適物が入っており、適正な分別をしていく必要があります。

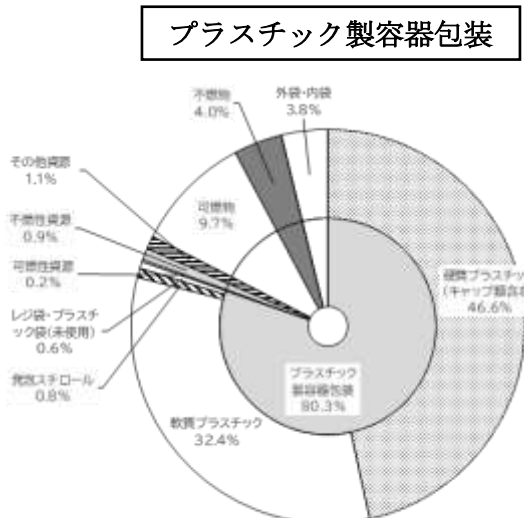
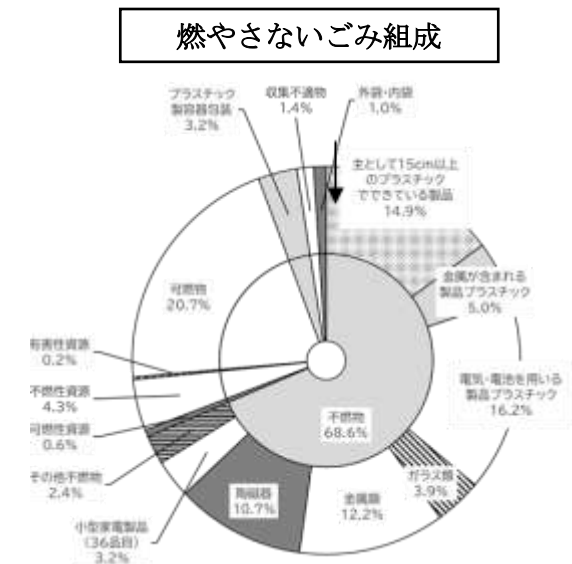
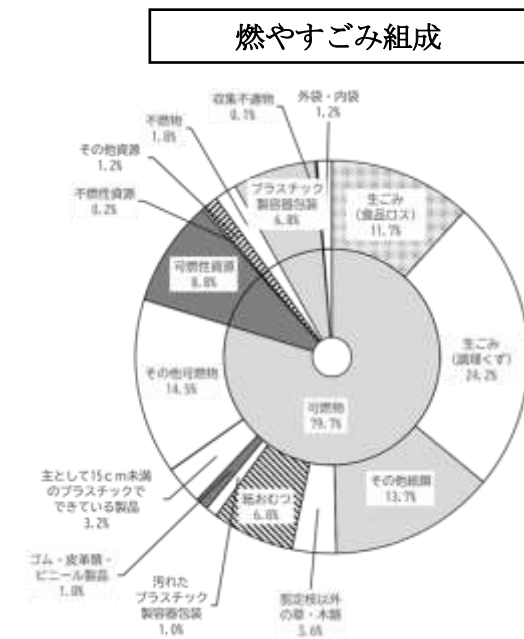
【家庭ごみ組成分析調査結果】 令和 5 (2023) 年度

(単位：%)

	可燃性資源	不燃性資源	有害性資源	その他資源	可燃物	不燃物	プラスチック製容器包装	収集不適物	外袋・内袋	適正分別	分別不適物
燃やすごみ	8.8	0.2	0.0	1.2	79.7	1.8	6.8	0.1	1.2	80.9	19.1
燃やさないごみ	0.6	4.3	0.2	0.0	20.7	68.6	3.2	1.4	1.0	69.6	30.4
プラスチック製容器包装	0.2	0.9	0.0	1.1	9.7	4.0	80.3	0.0	3.8	84.1	15.9

※ごみ中の水分を含んだ状態での分析 (湿ベース)

※燃やさないごみは、木製の家具が混入していたため、可燃物の割合が高くなっています。



(6) ごみ処理施設

① 中間処理施設

小平市のごみは、小平市・東大和市・武蔵村山市の3市で構成される小平・村山・大和衛生組合によって処理されています。

名称	小平・村山・大和衛生組合		
所在地	小平市中島町2番1号		
電話番号	(042)341-4345		
敷地面積	約 19,780 m ² (組合所有 約 9,540 m ² 、小平市借地 約 10,240 m ²)		
施設概要	不燃物積替場	昭和 43(1968)年 12 月竣工 約 690 m ²	
	廃水処理施設	昭和 50(1975)年 3 月竣工 51 m ³ /24 h	
		昭和 63(1988)年 3 月竣工 無放流化に改良 令和 3(2021)年 3 月 運転終了	
	粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	昭和 50(1975)年 10 月竣工 75 t/5 h	
		平成 10(1998)年 3 月選別装置改造 令和 2(2020)年 3 月 運転終了	
	不燃・粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	令和 2(2020)年 3 月竣工 28 t/5 h	
	焼却施設 (3号炉)	昭和 50(1975)年 3 月竣工 150 t/24 h 平成 2(1990)年 11 月 大規模改造 平成 15(2003)年 3 月バグフィルター設置 令和 2(2020)年 12 月 運転終了	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上3階、地下2階
		煙突	溶接鋼板製 地上 59.5 m
焼却施設 (4・5号炉)	昭和 61(1986)年 11 月竣工 平成 15(2003)年 3 月バグフィルター設置 105 t/24 h×2 炉		
	炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉	
	工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上4階、地下1階	
	煙突	外筒：鉄筋コンクリート造 内筒：鋼板製 地上 100 m	
設立の経緯	昭和 35(1960)年	当時の小平町が現在の場所をごみ処理施設に都市計画決定し、焼却場を建設	
	昭和 40(1965)年 2月1日	3市による一部事務組合を設立、共同処理事業に移行。小平市施設を引継ぎ処理	



小平・村山・大和衛生組合の外観

みんなでごみを
ヘラスンジャー！！



② 小平・村山・大和衛生組合投入量

3市のごみの投入量は下表のとおりとなっています。また、投入割合は、小平市が54%、東大和市が24%、武蔵村山市が22%となっています。

【小平・村山・大和衛生組合投入実績表】

(単位：t)

年度	小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	内訳(3市分)					
	投入量	投入割合	投入量	投入割合	投入量	投入割合		燃やすごみ		燃やさないごみ		粗大ごみ	
								量	割合	量	割合	粗大	割合
2019	33,588	51%	15,753	24%	16,339	25%	65,680	60,436	92%	3,290	5%	1,954	3%
2020	35,216	52%	16,094	24%	16,340	24%	67,650	61,632	91%	3,756	6%	2,262	3%
2021	34,681	53%	15,365	23%	15,803	24%	65,849	60,323	92%	3,401	5%	2,125	3%
2022	33,992	53%	15,036	24%	14,884	23%	63,912	58,689	92%	3,210	5%	2,013	3%
2023	32,777	54%	14,359	24%	13,223	22%	60,359	55,875	93%	2,615	4%	1,869	3%

※端数処理のため、小平・村山・大和衛生組合公表の数字とは異なる場合があります。

※小平・村山・大和衛生組合施設建て替えに伴い、一部のごみを他施設にて搬入・処理しています。

【小平・村山・大和衛生組合処理実績(小平市分)】

(単位：t)



焼却量 31,551 t = 焼却ごみ 30,090 t + 破碎可燃 1,461 t

焼却残渣(焼却灰) 3,421 t →エコセメント化(埋立処分量なし)

破碎残渣 628 t →資源化

③ 小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果

令和5(2023)年度のダイオキシン類の測定結果は、全ての炉で国の基準値を下回っています。

【小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果】

	測定項目	排出ガス	焼却灰	ばいじん	排水
		(煙突)			
		(単位)	(ng-TEQ/m ³ N)	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)
	基準値	1	3	3	10
4号炉	測定日：R5.9.6	0.0056	0.0016	0.51	0.012
5号炉	測定日：R5.7.26	0.0024	0.0046	0.80	

※測定結果は、コプラナーPCBを含んだ値です。

※1 ng(ナノグラム)は10億分の1グラムです。

※1 pg(ピコグラム)は1兆分の1グラムです。

※TEQは、毒性等量のこと、ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ダイオキシンの毒性等量に換算した数値です。

※焼却灰、ばいじん(飛灰)、ガス冷却灰ダスト及び汚泥の基準は、薬剤処理等の判断基準です。
全ての焼却施設において、薬剤処理を実施しています。

※焼却炉の集じん装置は、バグフィルターです。

④ 最終処分場

小平・村山・大和衛生組合で中間処理をした後の焼却残渣(焼却灰)は、25市1町共同による東京たま広域資源循環組合でエコセメント化(エコセメントの原料として資源化)を行っています。

名称	東京たま広域資源循環組合		
所在地	西多摩郡日の出町大字大久野 7642 番地		
電話番号	(042) 597-6151		
構成団体	25市1町		
処分場の規模	面積	用地面積	59.1 ha
		開発面積	33.3 ha
		埋立地面積	18.4 ha
		管理施設等面積	14.9 ha
		残存緑地面積	25.8 ha
	埋立容量	全体埋立容量	約 370 万 m ³
廃棄物埋立容量		約 250 万 m ³	
覆土容量		約 120 万 m ³	
埋立進捗率	44.7% (平成 30 (2018) 年度 年間進捗率 0.1%未満)		
エコセメント化施設	施設用地面積	4.6 ha	
	エコセメント平均生産量	約 430 t/日	



エコセメント化施設の全景(平成 30 年(2018)7 月撮影)



エコセメントで造られたベンチ

⑤ 最終処分場への搬入量

小平・村山・大和衛生組合での焼却で発生した焼却残渣（焼却灰）は、東京たま広域資源循環組合（最終処分場）に搬入しています。

【最終処分場搬入配分量及び実績】

		2021年度	2022年度	2023年度
搬入配分量	(焼却残渣・t)	3,683	3,683	3,499
	(不燃物・m ³)	0	0	0
投入実績量	(焼却残渣・t)	3,371	3,333	3,421
	(不燃物・m ³)	0	0	0
搬入配分量に対する貢献量	(焼却残渣・t)	312	350	78
	(不燃物・m ³)	0	0	0
体積換算係数 (m ³ /t)	可燃	0.72	0.85	0.84
	不燃	0.00	0.00	0.00

※広域割当量は、毎年ローリングされるので、市計画量と相違します。

⑥ 最終処分場での処分

東京たま広域資源循環組合（最終処分場）に搬入された焼却残渣（焼却灰）は、エコセメントに再生されています。中間処理施設で焼却された小平市のごみの量（焼却量）に対するエコセメント化した量と埋立てで処理された埋立量は、以下のとおりとなっています。

【最終処分場での処分実績】

(単位：t)

エコセメント化した量	3,421	埋立量	0
焼却量に対する割合	10.7%	ごみ量に対する割合	0.0%

※焼却量(31,551 t)

※ごみ量(32,777 t)

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

(7) 啓発等看板配布

リサイクルセンター、東部出張所、西部出張所および動く市役所で、下記の啓発等の看板を配布しています。



地区以外禁止

(現在配布のものは居住者以外に変更しています)



ごみ出しルール



品格



持ち去り禁止



不法投棄禁止(1)



不法投棄禁止(2)

【啓発等看板配布枚数】

(単位：枚)

	2021年度	2022年度	2023年度
地区以外禁止	14	11	30
ごみ出しルール	27	24	38
持ち去り禁止	33	1	0
不法投棄禁止(1)	109	51	85
不法投棄禁止(2)	131	82	94
品格	4	1	1
合計	318	170	248

4 し尿処理事業

(1) し尿処理の概要

小平市は、昭和 40(1965)年度に、し尿及び汚泥の処理を目的として湖南衛生組合に加入しました。その後、公共下水道の敷設の進展と共に処理量は減少しています。

また、施設の老朽化も進んだことから、処理量の減少と併せて、効率的な施設運営を図るため、平成 20(2008)年度に前処理希釈方式による処理能力 6 k1/日の施設に改修しました。

し尿処理量は減少傾向にあるものの、建設現場の仮設トイレや種々の理由のため下水道接続が困難な状況等もあり、今後も、し尿処理が必要になると考えられます。

こうしたことから、湖南衛生組合では、引き続きし尿の共同処理を行うため、平成 26(2014)年度から平成 28(2016)年度にかけて、処理量に見合った新処理施設等の整備、不用施設の解体・撤去及び土地の有効利用を実施する「総合整備事業」を進め、施設を更新しました。

(2) し尿処理施設

小平市のし尿および汚泥は小平市、立川市、武蔵野市、小金井市、国分寺市、東大和市、武蔵村山市の 7 市で共同運営する湖南衛生組合によって処理されています。

名称	湖南衛生組合（湖南処理場）
所在地	武蔵村山市大南 5 丁目 1 番地
電話番号	(042)561-1551
敷地面積	29,552.72 m ²

(3) し尿等処理量の推移

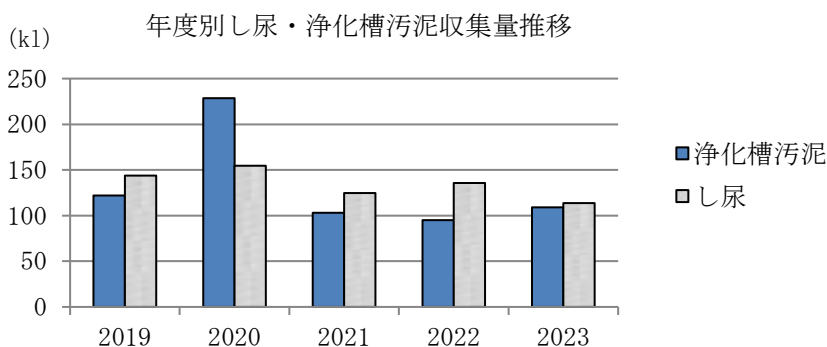
① し尿及び浄化槽の状況

し尿・浄化槽汚泥収集量の家庭系収集量は減少傾向にありますが、事業系収集量はその年の工事件数等によって増減するため、令和元(2019)年度は市内大規模事業所の工事に伴い、一時的に増加しています。

【年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移】

(単位：k1)

年度	2019	2020	2021	2022	2023
浄化槽汚泥	228.6	103.2	94.9	108.9	95.1
し尿	154.6	124.7	135.7	113.7	137.4
総収集量	383.2	227.9	230.6	222.6	232.5
前年比 (%) (総収集量)	44.2	△ 40.5	1.2	△ 3.5	4.4



【し尿処理人口（推計）別内訳】

（単位：人）

年度	2019	2020	2021	2022	2023
浄化槽	32	31	25	29	33
し尿	65	58	54	53	49

※平成 29(2017)年度より、5 年間以上利用がなかった人数を除いています。

② 湖南衛生組合し尿・浄化槽汚泥搬入実績表 | 年度別・組織団体別

（単位：k1）

	立川市		武蔵野市		小金井市		小平市		国分寺市		東大和市		武蔵村山市		合計	
	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合
2019	-	-	253.0	22%	97.7	9%	383.2	34%	-	-	248.8	22%	151.8	13%	1,134.5	100%
2020	-	-	202.5	23%	74.2	8%	227.9	25%	-	-	243.4	27%	151.4	17%	899.4	100%
2021	-	-	171.8	21%	76.6	9%	230.6	27%	-	-	238.4	28%	125.8	15%	843.2	100%
2022	-	-	214.4	24%	76.1	9%	222.6	25%	-	-	233.5	26%	144.2	16%	890.8	100%
2023	279.8	22%	204.6	16%	76.2	6%	232.5	18%	138.6	11%	209.0	17%	120.4	10%	1261.1	100%

※令和 5(2023)年度より新たに立川市と国分寺市が湖南衛生組合に加入しました。

(4) 浄化槽清掃

浄化槽については、浄化槽法により必要な清掃の回数が定められています。

【浄化槽清掃件数の推移】

（単位：件）

年度	2019	2020	2021	2022	2023
清掃件数	132	44	41	53	43

5 資源化事業

(1) 資源化事業の概要

小平市では、循環型社会の実現のため、様々な 3R を推進する取組を実施しています。

年度	取組内容
平成元(1989)	モデル地区での資源物の分別収集の開始
平成 3(1991)	コンポスト容器購入費補助(現・食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助)制度
平成 4(1992)	協力店での白色トレイ回収の開始 リサイクルフェスティバル実行委員会(旧ごみ減量推進実行委員会)の発足
平成 5(1993)	廃棄物減量等推進審議会の設置 市内全域で、古紙や古布、ビン、カンといった資源物の分別収集を開始 小平市リサイクルセンターがオープンし資源選別作業を開始
平成 6(1994)	廃棄物減量等推進員(愛称：クリーンメイトこだいら)の設置
平成 8(1996)	粗大ごみの有料化 リサイクルセンター増設工事により、ペットボトル再資源化施設及び粗大ごみ再生展示販売施設(リプレこだいら)を建設
平成 9(1997)	全市でペットボトルの分別収集の開始 優良な家具類の再生販売を開始 ペットボトル再資源化施設とリプレこだいらがオープン
平成 12(2000)	事業系ごみの全面有料化
平成 14(2002)	硬質のプラスチック製容器包装の全市収集を開始 剪定枝のチップ化事業を開始
平成 16(2004)	小学校の食物資源(生ごみ)一次処理物を使った堆肥を畑で利用し、その有効性と問題点を検証するモデル事業を開始
平成 20(2008)	落ち葉のリサイクル袋を作成し、希望者には貸出しを実施
平成 22(2010)	食物資源循環モデル事業を開始
平成 25(2013)	小型家電リサイクルのイベント回収及び拠点回収の開始 資源持ち去りの罰則の制定
平成 26(2014)	資源化品目の拡大 小型家電リサイクル法に基づく認定事業者と協定を締結し、宅配便による小型家電の自宅回収サービスを開始
平成 27(2015)	スマートフォン・タブレット端末向けに、ごみ分別アプリの運用を開始 小型家電リサイクルについて、市内図書館 6 か所に回収ボックスを増設
平成 28(2016)	未利用食品の回収を「フードドライブ」と称し、こだいら環境フェスティバルで本格実施
平成 29(2017)	食物資源循環事業の本格実施 小型家電リサイクルにおいて、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の実施
平成 30(2018)	リサイクルセンター設計・建設工事完了 ごみ分別アプリを単独版としてリニューアル エコショップこだいら認定制度の制定
令和元(2019)	家庭ごみ有料化及び戸別収集を実施 プラスチック製容器包装全量の分別収集及び資源化の実施 リサイクルセンターがオープン
令和 2(2020)	株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの協定によるペットボトル店頭回収の実施
令和 3(2021)	てまえどり運動の取組の実施 雑がみ袋を全戸に配布(パンフレットに同封)及び作成手順紹介動画を配信
令和 4(2022)	株式会社ジモティーとの協定の締結
令和 5(2023)	こだいら食べきり協力店登録制度の実施 株式会社マーケットエンタープライズ(おいくら)との協定の締結 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ(デニーズ)との協定の締結

(2) 資源回収売払金の推移 | 行政回収

各資源の市況により、売払い金は毎年大きく変動します。

【資源回収売払金の推移】

(単位：円)

年度	2019	2020	2021	2022	2023
生ビン	140,822	144,601	100,536	105,258	98,845
カレット (透明)	0	0	0	0	0
カレット (茶)	0	0	0	0	0
カレット (その他)	0	0	0	0	0
アルミ缶	29,991,561	32,834,040	59,072,200	63,096,410	57,333,485
スチール缶	3,711,870	4,239,645	7,859,234	7,897,355	7,204,285
新聞紙	8,614,250	4,547,870	5,263,690	8,335,100	7,717,020
雑誌	21,289,580	10,838,130	15,227,540	28,265,455	24,367,315
ダンボール	12,192,310	9,743,300	13,344,180	19,602,820	17,921,200
古布	5,727,637	3,514,145	3,833,140	5,018,790	9,104,200
ふとん	89,995	115,110	106,230	103,290	91,720
紙パック	54,390	29,750	47,740	50,190	50,470
白色トレイ	0	0	0	0	0
キャップ	3,950	0	0	0	0
その他	907,040	178,170	297,510	2,432,760	2,590,320
小計	82,723,405	66,184,761	105,152,000	134,907,428	126,478,860
消費税	7,398,545	6,618,472	10,515,194	13,490,736	12,647,881
ペットボトル*	0	0	0	0	0
再商品合理化拠出金*	0	0	0	0	0
小型家電売却金	0	59,477	104,489	192,788	239,756
廃食油売却金	1,103	2,425	16,544	13,860	15,145
陶磁器売却金	0	0	0	0	31,240
合計	90,123,053	72,865,135	115,788,227	148,604,812	139,412,882

※上記品目の一部について、発生した逆有償分(再資源化委託料)については本表に含まれません。

※ペットボトルの有償入札拠出金及び再商品合理化拠出金は、資源物中間処理施設の稼働に伴い、令和元(2019)年度から、小平・村山・大和衛生組合が扱うようになりました。

※陶磁器食器は令和5(2023)年10月から売払を開始しました。

(3) リサイクル施設

① 小平市リサイクルセンター

小平市リサイクルセンターは、ビン・カンを中心とした資源の選別・圧縮等の中間処理を行う資源化エリアと、資源循環課窓口、各種見学設備、リプレこだいらを備えたプラザエリアにより構成されています。また、旧リサイクルセンターの跡地をリサイクルセンター広場として整備し、令和4(2022)年3月より供用開始しています。

施設名称	小平市リサイクルセンター
住所	小平市小川東町5丁目19番10号
用途地域	準工業地域
主要用途	工場
構造・規模	鉄骨造2階建
敷地面積	11,447.00 m ²
建築面積	2,916.31 m ²
各階床面積	1階：2,737.63 m ² 、2階：1,347.47 m ²
延床面積	4,085.10 m ²
処理能力	ビン 12.6 t/5 h、 カン 5.6 t/5 h
建設費	約13億6,267万円
建設年度	平成30(2018)年度
主要機器	供給・搬送コンベヤ 破袋機・小袋破袋機 除袋機 磁選機 アルミ選別機 カンプレス機



リサイクルセンター

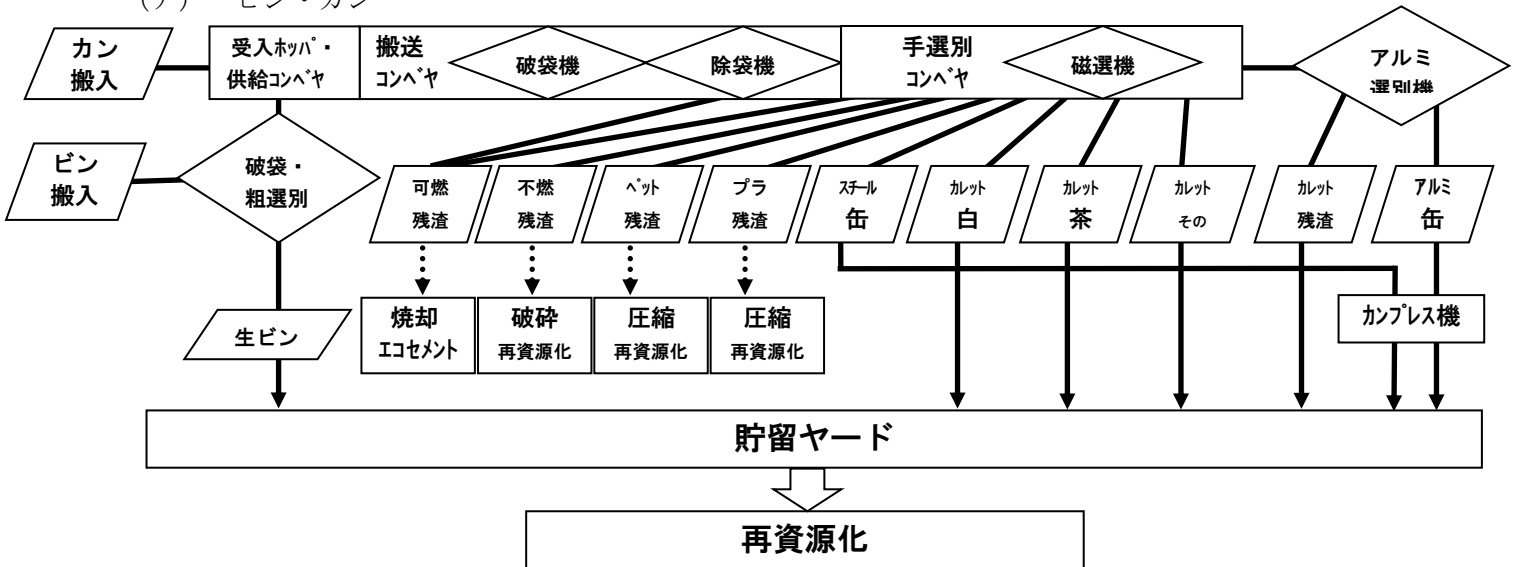


リサイクルセンター広場

【リサイクルセンター再資源化フロー】

主な資源の処理は以下のような流れとなっており、最終的に再資源化業者に引き渡しを行います。

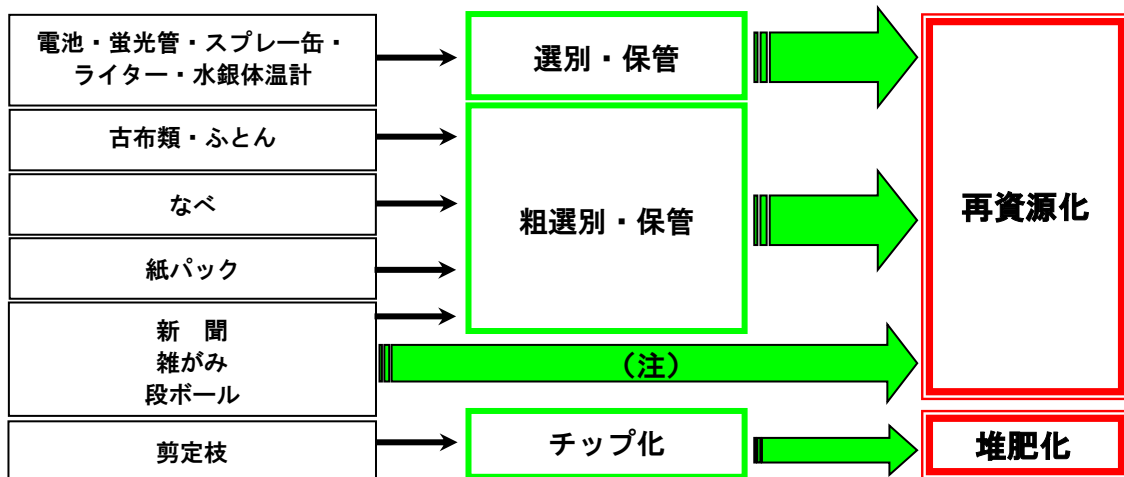
(ア) ビン・カン



※ビン、カンの選別作業は、同一ラインで処理日・時間帯を分けて行っています。

※ ……➡ の処理は、他の施設で行っています。

(イ) その他の資源（有害性資源、古布類、なべ、紙パック、古紙類、剪定枝）



※古紙類は収集後、リサイクルセンターを経由せずに再資源化業者へ直納しており、市民による直接持込分のみリサイクルセンターで受け入れています(持込分は古紙類全体の約0.2%程度)。

② 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設

小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設は、小平市、東大和市、武蔵村山市の家庭などから排出されるペットボトルとプラスチック製容器包装の選別・圧縮・梱包・保管を行う施設です。

また、資源の有効利用や資源循環の仕組みを学べる研修室などがあり、環境啓発活動も行える施設となっています。

施設名称	小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設 (エコプラザ スリーハーモニー)
住 所	東大和市桜が丘2丁目122番地の2
用途地域	工業地域
主要用途	ゴミ焼却場その他の処理施設
敷地面積	4,311.64 m ²
構造・規模	鉄骨造・地上3階建
建築面積	1,878.95 m ²
1階床面積	1,814.52 m ²
2階床面積	577.15 m ²
3階床面積	1,115.90 m ²
延床面積	3,612.62 m ²
処理能力	ペットボトル系列 6.0 t/5 h プラスチック製容器包装系列 17.0 t/5 h
建設費	約25億4,318万円(消費税込み)
工期	平成29(2017)年1月から 平成31(2019)年4月
主要機器	資源物クレーン 資源物供給コンベヤ 破袋機・破除袋機 比重差選別機 手選別コンベヤ 圧縮梱包機 集じん・脱臭・VOC除去設備



資源物中間処理施設の外観



ペール化(圧縮)されたペットボトル

(4) 資源回収補助金 | 集団回収

自治会、子ども会、マンション管理組合など地域の団体に行政に頼らず自主的な資源回収を補助する制度です。

① 補助金交付単価額 | 令和5(2023)年度

品目	単価	品目	単価	品目	単価
繊維類	7 円/kg	段ボール	*9 円/kg	カレット	7 円/kg
新聞	*9 円/kg	牛乳パック	9 円/kg	金属類	7 円/kg
雑誌類	*9 円/kg	ビン類	7 円/本	アルミ缶	25 円/kg

※引取業者選定依頼書を提出した場合、新聞・雑誌類・段ボールは6円/kg

② 年度別回収実績

年 度	2019	2020	2021	2022	2023
回収量 (kg)	2,179,079	1,932,111	1,768,516	1,700,203	1,606,463
補助金交付額 (円)	17,250,441	15,149,779	13,918,322	13,375,813	12,676,034
交付団体数 (団体)	121	113	107	103	101

③ 品目別回収量

(単位 : kg)

年 度	2019	2020	2021	2022	2023
繊維類	110,807	106,327	97,973	95,659	85,774
紙 類	2,014,808	1,768,641	1,614,078	1,551,321	1,469,841
ビン類	0	0	0	0	0
カレット	127	148	44	0	0
金属類	15,704	16,652	16,027	15,485	15,103
アルミ缶	37,633	40,343	40,394	37,738	35,745
計	2,179,079	1,932,111	1,768,516	1,700,203	1,606,463

④ 令和5(2023)年度 資源回収補助金交付団体数

上半期	97 団体
下半期	101 団体



(5) 食物資源循環事業

家庭から出る生ごみを食物資源として分別収集し、堆肥化する事業です。

平成 22(2010)年度から、モデル事業として、毎年 100 世帯程度の拡大を続け、平成 28(2016)年度に参加登録世帯数がおおむね 1,000 世帯となりました。平成 29(2017)年度から事業を本格実施とし、家庭ごみ有料化を契機に令和 2(2020)年度に 1,200 世帯を超え、以降は同規模で継続実施しております。

【食物資源循環事業資源化実績】

年度	2019	2020	2021	2022	2023
参加登録世帯数	1,000	1,246	1,248	1,253	1,254
資源化量(t)	82	93	91	86	80



(6) 食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助金

生ごみの自家処理を促進するために、小平市では食物資源(生ごみ)処理機器を購入した方を対象に補助制度を実施しています。

【食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助金交付実績】

年度	基数	補助額(円)	補助金交付対象
2019	194	2,544,600	全機種対応 購入金額の1/2
2020	150	1,987,000	上限 30,000円(家庭用) 300,000円(業務用)
2021	160	2,549,800	※処理機器は、日量処理能力が10kg未満のものを家庭用、10kg以上のものを業務用としています。
2022	154	2,686,700	
2023	173	4,026,000	

【令和 5(2023)年度 機種別補助交付実績】

機種	基数	補助額(円)
コンポスター系機種	18	135,900
ボカシ(EM)セット	2	2,000
電動型(乾燥型)	151	3,558,100
電動型(分解型)	0	0
家庭その他	1	30,000
業務用	1	300,000
合計	173	4,026,000



(7) 陶磁器食器回収

予め日時と場所を定めて実施する拠点回収に加え、平成 31(2019)年 4 月からリサイクルセンターでの常時回収を開始しました。

【陶磁器食器回収実績】

年度	2019	2020	2021	2022	2023
拠点回収回数(回)	6	5	5	6	6
拠点回収量(kg)	3,013	4,287	3,840	3,571	※3,290
常時回収量(kg)	11,497	14,083	7,316	10,579	8,030
回収量合計(kg)	14,510	18,370	11,156	14,150	11,320

※拠点回収はごみゼロフリーマーケット、環境フェスティバル、リサイクルきゃらばん(東部公園、小川西グラウンド、いなげや小平小川橋店、いなげや小平回田店)で回収したものの合計です。

(8) 小型家電回収

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は平成 31(2019)年 3 月 31 日で終了しましたが、小型家電の回収は継続し、再利用・資源化を行っています。

なお、回収と資源化のタイミングが異なるため、年度内の回収量と資源化量が一致しない場合があります。

【小型家電回収実績】

年度	2019	2020	2021	2022	2023
回収量(kg)	7,576	9,650	7,370	5,950	※7,260
資源化量(kg)	8,070	8,440	6,610	5,950	7,260

※回収方法：市役所、東部市民センター、西部市民センター、リサイクルセンターに加え、中央・喜平・上宿・津田・大沼図書館、なかまちテラス、鈴木公民館、上水新町地域センターに回収ボックスを設置して常時回収を行う他、ごみゼロフリーマーケット、環境フェスティバル、リサイクルきゃらばん(小川西グラウンド、東部公園、いなげや小平小川橋店、いなげや小平回田店)での拠点回収

(9) リプレこだいら

粗大ごみのうち一部優良なものや撤去された放置自転車の一部を小平市シルバー人材センターの会員が修理し、展示販売しています。

【リプレこだいら販売実績】令和 5(2023)年度

品目	点数	販売金額(円)
整理タンス	75	445,100
その他タンス	94	429,800
食器棚	72	394,300
レンジ台	31	138,100
本棚・スチール棚	167	489,700
テーブル・座卓	276	1,000,400
机	56	173,500
いす	593	1,474,400

品目	点数	販売金額(円)
ソファー・マット	114	555,900
ベッド	64	335,100
その他	928	1,470,050
修理	66	288,800
配送	392	757,300
返品	-6	-35,700
自転車	149	1,515,540
自転車修理	183	521,400
計	3,254	9,953,690

※(公社)小平市シルバー人材センター資料より

(10) 年賀ハガキ等回収

不要になっても、個人情報がかっているはがきは手放しにくいものですが、はがき回収ボックスに投函していただくと、一旦市で預かり、紙類のリサイクル工場で資源化されます。

【年賀ハガキ等回収実績】

(単位：kg)

年度	2019	2020	2021	2022	2023
郵便局計	355.0	354.9	376.5	319.0	288.0
市役所本庁舎	295.0	115.0	340.0	141.0	190.5
東部出張所	205.0	205.0	205.0	76.0	86.0
西部出張所	100.0	100.0	100.0	13.0	8.0
リサイクルセンター	-	-	-	-	14.3
計	955.0	774.9	1021.5	549.0	586.8

※郵便局実施期間 暑中見舞いハガキ：8月～9月 年賀ハガキ：1月～2月

※リサイクルセンター分については、令和5(2023)年10月から集計開始